

2022年7月17日 午前礼拝
「聖化の方法」 説教:大木英雄牧師

【引用聖句】使徒 20:2~12

- 2 そして、その地方を通り、多くの勧めをして兄弟たちを励ましてから、ギリシヤに来た。
- 3 パウロはここで三か月を過ごしたが、そこからシリヤに向けて船出しようというときに、彼に対するユダヤ人の陰謀があったため、彼はマケドニヤを経て帰ることにした。
- 4 プロの子であるペレヤ人ソパテロ、テサロニケ人アリストタルコとセクンド、デルベ人ガイオ、テモテ、アジア人テキコとトロピモは、パウロに同行していたが、
- 5 彼らは先発して、トロアスで私たちを待っていた。
- 6 種なしパンの祝いが過ぎてから、私たちはピリピから船出し、五日かかってトロアスで彼らと落ち合い、そこに七日間滞在した。
- 7 週の初めの日に、私たちはパンを裂くために集まった。そのときパウロは、翌日出発することになっていたのに、人々と語り合い、夜中まで語り続けた。
- 8 私たちが集まっていた屋上の中には、ともしびがたくさんともしてあった。
- 9 ユテコというひとりの青年が窓のところに腰を掛けていたが、ひどく眠けがさし、パウロの話が長く続くので、とうとう眠り込んでしまって、三階から下に落ちた。抱き起こしてみると、もう死んでいた。
- 10 パウロは降りて来て、彼の上に身をかかめ、彼を抱きかかえて、「心配することはない。まだいのちがあります」と言った。
- 11 そして、また上がって行き、パンを裂いて食べてから、明け方まで長く話し合っ、それから出発した。
- 12 人々は生き返った青年を家に連れて行き、ひとかたならず慰められた。



【説教要約】

使徒 20:2, そして、その地方を通り、多くの勧めをして兄弟たちを励ましてから、ギリシヤに来た。

ギリシヤは、地図で見るとアカイアのあたりです。

使徒 20:3, パウロはここで三か月を過ごしたが、そこからシリヤに向けて船出しようというときに、彼に対するユダヤ人の陰謀があったため、彼はマケドニヤを経て帰ることにした。シリヤは、イスラエルのガリラヤ湖の北 300 キロの所にある町、

使徒 16:9, ある夜、パウロは幻を見た。ひとりのマケドニヤ人が彼の前に立って、「マケドニヤに渡って来て、私たちを助けてください。」と懇願するのであった。

マケドニヤは、パウロがアジアか初めてらヨーロッパに渡った町です。

使徒 20:4~7

4 プロの子であるペレヤ人ソパテロ、テサロニケ人アリストアルコとセクンド、デルベ人ガイオ、テモテ、アジア人テキコとトロピモは、パウロに同行していたが、

5 彼らは先発して、トロアスで私たちを待っていた。

6 種なしパンの祝いが過ぎてから、私たちはピリピから船出し、五日かかってトロアスで彼らと落ち合い、そこに七日間滞在した。

7 週の初めの日に、私たちはパンを裂くために集まった。そのときパウロは、翌日出発することになっていたの、人々と語り合い、夜中まで語り続けた。

週の初めの日 = 日曜日、パンを割くために集まった = 主の晩餐

使徒 20:8, 私たちが集まっていた屋上の間には、ともしびがたくさんともしてあった。

使徒 20:9, ユテコというひとりの青年が窓のところに腰を掛けていたが、ひどく眠けがさし、パウロの話が長く続くので、とうとう眠り込んでしまって、三階から下に落ちた。抱き起こしてみると、もう死んでいた。

パウロは聖霊に満たされて話しているので、聖霊が語らせてくださるので眠くないのです。しかしユテコという青年は聖霊に満たされていないので眠いのです。そして3階の窓から落ちて死んでしまったのです。

使徒 20:10, パウロは降りて来て、彼の上に身をかがめ、彼を抱きかかえて、「心配することはない。まだいのちがあります。」と言った。

パウロは3階から降りて来て彼を抱きかかえ「心配することはない、まだ命がある」と言った。

使徒 20:11, そして、また上がって行き、パンを裂いて食べてから、明け方まで長く話し合っ、それから出発した。

使徒 20:12, 人々は生き返った青年を家に連れて行き、ひとかたならず慰められた。

パウロが言った通り青年は生き返り、みんなはとても慰められました。皆さんはここから何を学びますか。パウロはユテコが3階から落ちてしまうほど長く話す必要があったのでしようか。ここからは一人一人が聖霊によって教えられなければならないことです。

私が教えられたことはクリスチャンには二人の人が住んでいます。

(1)一人は自己中心な自分

(2)もう一人は聖霊様

別の言い方をしますと

(1)義認⇒これはキリストを信じるだけで神様が義と認めてくださいます。これは恵みです。

(2)聖化⇒これは自己中心な自分の考えに頼らず神様のみ言葉だけに頼る生き方をする事です。

マタイ 16:24, それから、イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

マタイ 16:25, いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです。

自分を捨てることは自分の努力ではできません。「自分の十字架を負う」ということを多くの方は誤解しています。多くに人は自分の過去の苦しい経験の事を自分の十字架とっていますが、そうではありません。イエス様に従おうとしたら必ずいろいろな試練に会います。この試練のことを「自分の十字架」と言っているのです。

ダビデは神様に従おうとしてゴリアテを倒すことによってサウルからねたまれ殺されそうになるのです。ダビデは神様に従うことによってサウルに殺されそうになります。これがダビデの十字架です。このような試練の時に自己中心的な自分の考えに頼るか神様のみ言葉に頼るかの訓練があるのです。

旧約聖書はどうしたら聖化されるかについてとても分かりやすく教えています。

列王記第一 3:5~11

5 その夜、ギブオンで主は夢のうちにソロモンに現れた。神は仰せられた。「あなたに何を与えようか。願え。」

6 ソロモンは言った。「あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに大いなる恵みを施されました。それは、彼が誠実と正義と真心とをもって、あなたの御前を歩んだからです。あなたは、この大いなる恵みを彼のために取っておき、きょう、その王座に着く子を彼にお与えになりました。

7 わが神、主よ。今、あなたは私の父ダビデに代わって、このしもべを王とされました。しかし、私は小さい子どもで、出入するすべを知りません。

8 そのうえ、しもべは、あなたの選んだあなたの民の中におります。しかも、彼らはあまりにも多くて、数えることも調べることもできないほど、おびただしい民です。

9 善悪を判断してあなたの民をさばくために聞き分ける心をしもべに与えてください。さもなければ、だれに、このおびただしいあなたの民をさばくことができるのでしょうか。」

10 この願い事は主の御心にかなった。ソロモンがこのことを願ったからである。

11 神は彼に仰せられた。「あなたがこのことを求め、自分のために長寿を求めず、自分のために富を求めず、あなたの敵のいのちをも求めず、むしろ、自分のために正しい訴えを聞き分ける判断力を求めたので、

ソロモンは自分のために長寿を求めず、富も求めず、あなたの敵のいのちをも求めず、むしろ、自分のために正しい訴えを聞き分ける判断力を求めたので、ソロモンが求めたものを神様は与えてくださいました。そしてソロモンがもとめなかった富と誉も与えてくださいました。

列王記第一 3:12~14

12 今、わたしはあなたの言ったとおりにする。見よ。わたしはあなたに知恵の心と判断する心とを与える。あなたの先に、あなたのような者はなかった。また、あなたのあとに、あなたのような者も起こらない。

13 そのうえ、あなたの願わなかったもの、富と誉れとをあなたに与える。あなたの生きていくかぎり、王たちのなかであなたを選ぶ者ひとりもないであろう。

14 また、あなたの父ダビデが歩んだように、あなたもわたしのおきてと命令を守って、わたしの道を歩むなら、あなたの日を長くしよう。」

神様はソロモンに富と誉も与えてくださいました。

列王記第一 10:1~10

1 ときに、シェバの女王が、主の名に関連してソロモンの名声を伝え聞き、難問をもって彼をためそうとして、やって来た。

2 彼女は、非常に大ぜいの有力者たちを率い、らくだにバルサム油と、非常に多くの金および宝石を載せて、エルサレムにやって来た。彼女はソロモンのところに来ると、心にあったすべてのことを彼に質問した。

3 ソロモンは、彼女のすべての質問を解き明かした。王がわからなくて、彼女に説き明かせなかったことは何一つなかった。

4 シェバの女王は、ソロモンのすべての知恵と、彼が建てた宮殿と、

5 その食卓の料理、列席の家来たち従者たちが仕えている態度とその服装、彼の献酌官たち、および、彼が主の宮でささげた全焼のいけにえを見て、息も止まるばかりであった。

6 彼女は王に言った。「私が国であなたの事績とあなたの知恵とについて聞き及んでおりましたことはほんとうでした。

7 実は、私は、自分で来て、自分の目で見るとまでは、そのことを信じなかったのですが、驚いたことに、私にはその半分も知らされていなかったのです。あなたの知恵と繁栄は、私が聞いていたうわさよりはるかにまさっています。

8 なんとしあわせなことでしょう。あなたにつく人たちは。なんとしあわせなことでしょう。いつもあなたの前に立って、あなたの知恵を聞くことのできる家来たちは。

9 あなたを喜ばれ、イスラエルの王座にあなたを着かせられたあなたの神、主はほむべきかな。主はイスラエルをとこしえに愛しておられるので、あなたを王とし、公正と正義とを行わせられるのです。」

10 彼女は百二十タラントの金と、非常にたくさんのバルサム油と宝石とを王に贈った。シェバの女王がソロモン王に贈ったほどに多くのバルサム油は、二度と入って来なかった。

シェバの女王がソロモンのうわさを聞いて確かめに来ましたが、実際にソロモンに会ってみると、うわさ以上だったのです。神様はそれほどソロモンを祝福された。神様に祝福されるとどうなると思いますか。高慢になります。高慢とは自分の力に頼り神様に頼らないことです。

列王記第一 11:1~13

1 ソロモン王は、パロの娘のほかにも多くの外国の女、すなわちモアブ人の女、アモン人の女、エドム人の女、シドン人の女、ヘテ人の女を愛した。

2 この女たちは、主がかつてイスラエル人に、「あなたがたは彼らの中に入って行ってはならない。彼らをもあなたがたの中に入れてはならない。さもないと、彼らは必ずあなたがたの心を転じて彼らの神々に従わせる」と言われたその国々の者であった。それなのに、ソロモンは彼女たちを愛して、離れなかった。

3 彼には七百人の王妃としての妻と、三百人のそばめがあった。その妻たちが彼の心を転じた。

4 ソロモンが年をとったとき、その妻たちが彼の心をほかの神々のほうへ向けたので、彼の心は、父ダビデの心とは違って、彼の神、主と全く一つにはなっていなかった。

5 ソロモンはシドン人の神アシュタロテと、アモン人のあの忌むべきミルコムに従った。

6 こうしてソロモンは、主の目の前に悪を行い、父ダビデのように、主に従い通さなかった。

7 当時、ソロモンは、モアブの、忌むべきケモシュと、アモン人の、忌むべきモレクのために、エルサレムの東にある山の上に高き所を築いた。

8 彼は外国人の自分のすべての妻のためにも、同じようなことをしたので、彼女たちは自分たちの神々に香をたき、いけにえをささげた。

9 主はソロモンに怒りを発せられた。それは彼の心がイスラエルの神、主から移り変わったからである。主は二度も彼に現れ、

10 このことについて、ほかの神々に従って行ってはならないと命じておられたのに、彼は主の命令を守らなかったからである。

11 それゆえ、主はソロモンに仰せられた。「あなたがこのようにふるまい、わたしが命じたわたしの契約とおきてとを守らなかったので、わたしは王国をあなたから必ず引き裂いて、あなたの家来に与える。

12 しかし、あなたの父ダビデに免じて、あなたの存命中は、そうしないが、あなたの子の手からそれを引き裂こう。

13 ただし、王国全部を引き裂くのではなく、わたしのしもべダビデと、わたしが選んだエルサレムのために、一つの部族だけをあなたの子に与えよう。」

ソロモンのように箴言を書いた人でも悪魔は女性を用いてソロモンを誘惑したのです。

箴言 16 : 18 心の高慢は倒れに先立つ

箴言 18 : 12 人の心の高慢は破滅に先立つ

男性は女性に弱いことを悪魔は知っているのです。悪魔は女性を用いてソロモンを誘惑したのです。

「聖化」というのは自分の力に頼るのではなく神様の力に頼ることです。大学でも4年たったら卒業します。しかし聖化の学校には卒業はないのです。

Ⅱコリント 12:9, しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。

どうして自分の弱さを誇れるのでしょうか。それは弱くないと神様に頼らないからです。ソロモンも自分が弱い時は神様に頼っていました。しかし自分が強くなると自分の力に頼るようになるのです。自分の弱さを嘆くのではなく、自分が弱いときこそ神様に頼る絶好のチャンスなのです。